

授業改善のイメージ(社会科)

本年度の研究テーマ(2年次)

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成 ～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

授業改善を行う単元とその評価規準(思考力・判断力・表現力等)

1年「古代までの日本」 古代国家の歩みと東アジアの世界	2年「日本の諸地域」 中部地方	3年「現代の民主政治と社会」 国の政治の仕組み
今につながる日本の文化が隋、唐、宋などの影響を受けてどのように生まれたかを律令国家の確立に至るまでの過程や貴族や天皇による政治の展開と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。	中部地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域の特徴、人々の生活などに着目し、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連付けて、多面的多角的に考察し、表現している。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、国の政治の在り方について対話的な学びを通して、多面的・多角的に考察し、根拠をもって表現している。

「思考力・判断力・表現力等」の育成の方針

(1) 大切にしたい見方・考え方の明確化

【社会に見られる課題の解決に向けて、自他との対話や活動により、多面的多角的に考察し、表現すること。】

現在の社会においては、目まぐるしく変化が進み、多様な価値観が形成されている。そうした社会の中で生き抜き、自他とともに社会を形成していく必要がある。こうした社会を考えたいうえで、現在、社会がかかえている課題や問題を自分事としてとらえ、それがなぜ起きているか、またどのような方向に進もうとしているかをつかみ、それをより良い方向に向かわせるためにどうすべきなのか、また、どのように解決していけばよいのかを主体的に考える必要がある。しかし、それを自分だけで内在させるのではなく、他者との対話や協働的活動で、様々な面で考察したり、多様な角度からアプローチしたりすることが大切となる。こうして得た見方や考え方を自分で調整し、自らの最適解を導き出すことがこれからの社会で生き抜くためには必要と感じたことから、このように設定した。

- ・地理的分野…位置や空間的な広がりに着目して、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける。
- ・歴史的分野…時期、推移などに着目して、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける。
- ・公民的分野…政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論と関連付ける。

(2) 「見方・考え方」を働かせるための「見通し」と「振り返り」の場面の設定

① 「見通し」をもたせる場面

見方・考え方を働かせる発問の工夫

- ・社会に見られる課題を自分事としてとらえさせるために、身近な話題を導入や発問に仕組み、それを自ら考えるとともに、他者やグループでの対話をもとに、多面的・多角的な見方・考え方を働かせるようにする。
- ・自分だけでは解決できないような社会的課題を発問として設定し、多様な考えを受容できるよう工夫する。
- ・地理的分野…中部地方にナンバーワンのものが多いのはなぜだろうか。
中部地方は、世界や日本の他地域とどのような結びつきがあるだろうか。
- ・歴史的分野…遣唐使の停止による文化の国風化が今の日本の文化にどのように影響しているのだろうか。
政治の中心は時代の変化の中でどのような背景を得て藤原氏へ移っていったのだろうか。
- ・公民的分野…国会・内閣・裁判所には、どのような仕組みがあるのだろうか。
国会では、なぜ繰り返し議論を行う必要があるのだろうか。

見通しを共有する場面の設定

- ・単元のはじめに「単元を貫く課題」を提示単元で学ぶことの意義や蓄積がどのように課題解決につながっていくかを可視化する。
- ・地理的分野…なぜ、中部地方にはナンバーワン産業が多いのだろうか?～売り込め!NEXT TOYOTA!!～
- ・歴史的分野…現代の国家や文化との違いや共通点は何だろうか?
- ・公民的分野…国の政治の力を1つにまとめたらどうなるだろうか?
- ・学びのコンパスという形で、どのような視点をもって学習へ向かうべきなのかを示し、意識づけたうえで学習に入っていく。

②「振り返り」の場面

- ・リフレクションシートを用いて、単元構成を可視化し、振り返りの蓄積を「単元のまとめ」に繋げるようにする。
 - ・「単元のまとめ」については、リフレクションシートに積み上げたものを思考ツールやレポートに取り組む。
- 新たに得た「見方・考え方」を活用し、多面的・多角的にとらえたことを表現させるよう意識させる。

(3) 評価方法の充実の方針

① 形成的評価

ワークシートの記述・発言や意見交流の様子・リフレクションシート から B に達していない生徒の把握。

【努力を要する生徒に、個別または全体においてそれぞれ以下のような手だてを講じる。】

・事実(現象)を把握できているか…「いつ、どこ、誰、何」などの事実的知識を明確にする。

地理的分野>単元のはじめに基礎的な語句やおさえるべきポイントをイメージマップ等で整理させておく。それをワークシートやリフレクションシートに蓄積させ、単元のまとめに繋げていけるよう工夫し、支援を行う。

歴史的分野>律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治や東アジアの文物や制度を積極的に取り入れ国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。また、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。

・授業の初めに単元を貫く課題を提示し、リフレクションシートにポイントをおさえさせる

公民的分野>国会・内閣・裁判所など、三権の役割や仕組みを表に整理させ、正確に抑える。

ペアでクイズ形式で出題しあい、説明しながら確認させる。

・知識や技能をもとに、概念化(理論化)できているか…様々な資料のなかから、「なぜ」の理由を説明できるもの
を取捨選択できるよう、視点を与える声掛けをする。

地理的分野>資料やデータにおいて顕著な数字などに注目させる。

「なぜ、こんなに減ったのか?」や「なぜ、この時に大きく増えたのか?」など、焦点化して考えさせる。

歴史的分野>年表を基にして国家の成り立ちや国家・文化の変化に着目させる。また変化するには理由があるのでそれを東アジアとの関わりを基に説明させる。

公民的分野>基本的人権の尊重と三権分立の因果関係を思考ツールを使って視覚化し、説明させる。

・価値的形成(意思決定)ができているか…ペアやグループでの活動など協働的活動から様々な価値判断に触れさせ、「私はどうするか」自ら判断する経験を積ませる。

地理的分野>話し合い活動の際に、付箋や ICT 機器(パドレット)などを活用し、視覚的にも他者の考えが残るように工夫する。自分の考えに何を加えていくかを精査することで、考えを深め、意見を固めさせる。

歴史的分野>その時代の様々な特色に対して現代と比較しながら自分の意見出す。その際に、グループでの活動を行い、多面的・多角的に考えさせ、表現させる。

公民的分野>課題に対して、「賛成/反対」など自分の立場を表明させる。その理由を資料を引用して表現させる。

・ユニバーサルデザインの教材…ICT を活用し、写真資料や動画などから視覚的に捉えやすくする。

② 総括的評価【パフォーマンス課題・単元テスト・単元末レポート(単元まとめ)・定期テスト】

- ・パフォーマンス課題…「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」
- ・単元末テストの実施…「知識・技能」
- ・単元末レポート(単元まとめ)…「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」
- ・定期テスト…「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」